

内郷村報

天法人則
ニ從順ナ
ルベシ

内郷村報の 六大使命

- 一、政權改革を期して、村を充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協力を計り、實現和親努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事善行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村外諸君及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

非國民精神的方法 國民精神的方法

大内民惠

この一文は、十一月十二日、白河町に開催せられた、縣下方面委員大會に、予が壇上に立つて本村より提出した「方面委員の出張旅費ニ關スル件」を説明したる大要を、補正したものである。

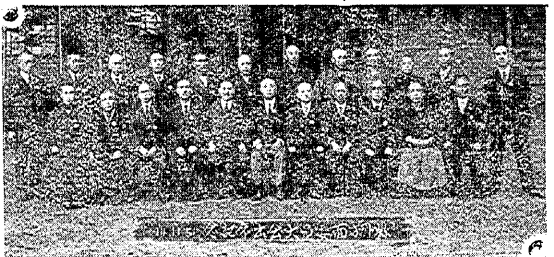
こゝに改めて申上ぐる迄もなく本縣下に於ては、方面委員が、視察出張、大會出席等の場合に於て其例外は無きにもあらず、日當は勿論、交通費も宿泊料も支給せられないので、其目的を達成する上に於て、少なからざる支障があると思はれますので、参考の爲に、他府縣の状況を知らたいと存じまして、三府十餘縣に對して往復端書を以て、問い合わせました。其中で最も我意を得たのは、流石は先進縣、岡山愛知の兩縣であつたのであります。此兩縣に於ては交通費は三等賃賃、宿泊料は縣内或四五拾錢、縣外四圓五拾錢と規定せられてあります。

それでは本縣に於ても、其何れから之を支出するをいたしまして、大體此程度の標準を以て、縣下に

予が住む家の内庭に、大きな終つたらうか、家内に此樹に、長さ一尺五寸ばかりの、蛇の脱殻のある

予が住む家の内庭に、大きな終つたらうか、家内に此樹に、長さ一尺五寸ばかりの、蛇の脱殻のある

予が住む家の内庭に、大きな終つたらうか、家内に此樹に、長さ一尺五寸ばかりの、蛇の脱殻のある



縣下方面委員大會出席者本村方面委員並
並助會支長部長氏名は第三面記事参照

は閣議にかけること、なるのは必定であります。幸ひなるかな現首相は、阿部閣下であります。前例によつて、閣議お談議が重なられ結局之は國費若しくは縣費を以て支辨すべきものなりといふ、決裁をして下さることは、日を睹るよりも明かである、信するのであります。

されどこの方法は、我々は断じてさるべきものでない、思

ふのであります。皆様の御手許に差上げておいた、内郷村報十月號第一面一時問題三十一字群中に、不肖が楠公の誠忠を詠んだ進言は容れられなくも楠公は

決死出陣す淡川原に
これが國民精神の精髓である
我輩は堅く信するのであります
これが國民精神的方法であるのであります。我々は須らく此精神に則り、我々の希望願の一切は、こゝに御列席の、我々の最も信頼

本報發行は大内一家の事業にして、其の社は子孫に傳へる遺業を養ふるなり

赤化せる労働者群の如くに、同盟罷業をするが如きは、平時に於ては勿論、況んや此非常時に於ておや、かゝる暴舉に出づるは、第一上 陛下に對し奉りて、相濟まぬ次第である、予は断言して憚らぬ。其貿易省設置の必要を云々せらるゝに至れる、之れ必竟、外務省當局の無能の致すところといふべきである。又今日の大事變を招來したる、支那に於ける抗日排日の教育は、何れの日芽生えたのであつたか、既に其當初に於て之を剪除する對策を講ずべきであつたのであるが、往昔放棄、今日全國力を擧げて、噓はさるべからざるに至つた因由は、云々迄もなかつたといはれても、辯明の餘地はあらずと思はれる。

筆の序に、一言附加しておくが外務省の高等官連が、事ここに至つた、愛國の至情の一端は、我々も亦之を認むるが、苟くも勅任乃至委任の待遇を忝うするものが、

此願ひ容れられなくも我々は決死撲滅せん貧棒の軍の意氣を以て、一路邁進したるに存じます。諸君以て如何とぞ

説明を終れば、滿場拍手、之に賛同の意を表したるを以て、予は後顧和田議長を仰ぎ、斯の通りなるを以て、此議御採擇あられよと建言すれば、微笑點頭して、之を承諾せられたのであつた。

又現内閣が、外務省高等官の慰撫留任に之れ努め、其成らざるを見るが如きは、其威信を失墜したるは勿論、我史上に一大惡例のこしたるもの云ふべきである。

(以下二面)

赤化せる労働者群の如くに、同盟罷業をするが如きは、平時に於ては勿論、況んや此非常時に於ておや、かゝる暴舉に出づるは、第一上 陛下に對し奉りて、相濟まぬ次第である、予は断言して憚らぬ。其貿易省設置の必要を云々せらるゝに至れる、之れ必竟、外務省當局の無能の致すところといふべきである。又今日の大事變を招來したる、支那に於ける抗日排日の教育は、何れの日芽生えたのであつたか、既に其當初に於て之を剪除する對策を講ずべきであつたのであるが、往昔放棄、今日全國力を擧げて、噓はさるべからざるに至つた因由は、云々迄もなかつたといはれても、辯明の餘地はあらずと思はれる。

◆從業員大募集!

人員 貳千名 (経験が無くても仕事が出来ます)

内訳 炭夫 一七〇〇名 坑内機械夫 一〇〇〇名
支柱夫 一〇〇〇名 坑内工作夫 五〇〇名
坑内運搬夫 一〇〇〇名

年齢 滿十六歳以上五十歳まで (身体壯健のもの)

賃金 賃金會社にて賃摺いたします

住宅 一日以上五圓(請負制)就業時間八時間乃至拾時間)世帯持には住宅を無料で貸與いたします

寄居場所 獨身者のために寄居舎あり(食費被具共一日五十錢)

就業場所 綴坑、住吉坑、町田坑(常盤線綴下車)長倉坑(本線下車)希望者は最寄職業紹介所か町村役場又は直接會社に御申込下さい!

東北第一の大炭礦!!
磐城炭礦株式會社礦業所
(福島縣石城郡内郷村大字綴)

本報發行部 内郷村報社
福島縣石城郡内郷村大字綴
電話 四八四〇
大内民惠
印刷所 平活版所

昭和十四年八月十日午前六時
離室亡母の靈前に於て記したる
(完)

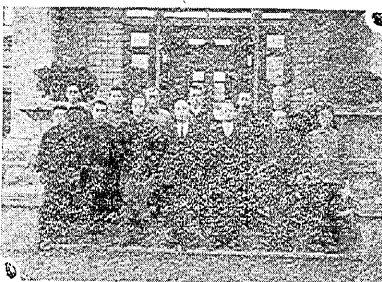
海外に於ける大公使館領事館等の職務の實際を見るに、其殆んどすべては、判任級の官吏を以て、之を辯じて居るのである。外務本省に於ても然りである。此時此際、辭表を提出したる者は、全部之を撤去し、海外に於ては、特に勅令を仰ぎ、其地在留民中より、適材を特別任用するも一法であり、又省内に於ては、他の各省より、

之に要する適材を、簡拔任用すれば、事足つたこと、思ふ。妙たる外交官補や、領事官補の登用試験に合格した者のみが、外交官たる資格を有するものと考へて居ることは、大なる間違ひである。要は國民精神を體得せる、國民中より優秀なる外交官を任用する事が、其當を得たものであつたこと、予は深く信するものである。

◎本紙は特に外務省に贈呈する。

月收百圓以上！ 磐炭第一線の勇士！！

- 目下磐城炭礦に於ける八千の従業員中、月收百圓を突破する第一線の勇士は、其數無慮數百名に達し、内單身來山十餘の寄宿舎に分宿して、奮闘しつゝ、ある人々の原籍氏名は左の通りである。但し圓以下は四捨五入七年會飯尾等とあるは所屬寄宿舎である。
- 一五〇 福島縣田村郡夏井村 七年會 志比奈忠藏 四〇
 - 一五二 同 伊達郡白根村 飯尾 同
 - 一五三 同 大槻 正治 元
 - 一五四 同 同 小原 同
 - 一五五 山形縣米澤市南町 茅根 霜山 銀七 三〇
 - 一五六 同 佐久間兼夫 二四
 - 一五七 福島縣石川郡石川町 川口 鈴木 勝治 三〇
 - 一五八 宮城縣伊具郡西根村 七年會 佐藤今朝吉 三〇
 - 一五九 福島縣伊達郡白根村 小原 霜山 政治 二五
 - 一六〇 宮城縣登米郡米山村 飯尾 寺島 權三 二五
 - 一六一 岩手縣氣仙郡米崎村 直營 田畑 辨治 四〇
 - 一六二 福島縣伊達郡白根村 小原 谷口與次平 三〇
 - 一六三 同 縣安達郡山木屋村 七年會 遠藤 八郎 三〇
 - 一六四 宮城縣志田郡鹿島臺村 飯尾 角田 源治 二七
 - 一六五 福島縣伊達郡白根村 小原 齋藤 清作 二四
 - 一六六 宮城縣桃生郡前谷地村 飯尾 菅原 金男 二六
 - 一六七 福島縣安達郡戸澤村 直營 牧野 新一 二九
 - 一六八 同 縣石城郡湯本町 近藤 西内 正徳 三三
 - 一六九 秋田縣雄勝郡三輪村 飯尾 下橋 五郎 三〇
 - 一七〇 福島縣信夫郡金谷川村 小名濱 渡邊庄兵衛 三三
 - 一七一 茨城縣東茨城郡碓氷村 茅根 廣木 守郎 三三
 - 一七二 山形縣最上郡及位村 飯尾 渡邊喜一郎 二九
 - 一七三 福島縣伊達郡山舟生村 小名濱 齋 一五



花巻労働報國團第一班 (前館念記徳頌翁野淺)

職業紹介所 勤勞報國團

岩手縣花巻職業紹介所の幹旋の下に、勤勞報國團を結成、此程其第一班は、七年會和兩郡支部長長澤宗次郎、班長瀨谷健六、副班長高橋由介の三君に引率せられて來山、七年會に入會して、奮闘を開始した。茲に掲載の寫眞は、御代募集課長及大内七年會長を取圍んでの其の記念撮影である。

- 一七四 宮城縣桃生郡前谷地村 飯尾 早川 春美 二五
- 一七五 福島縣信夫郡金谷川村 小名濱 河野 潔 二五
- 一七六 同 雙葉郡津島村 飯尾 發田 勇 一九
- 一七七 岩手縣神宮郡新堀村 同 大澤重右工門 二〇
- 一七八 山形縣東置賜郡中郷村 茅根 今野 二郎 二四
- 一七九 宮城縣名取郡中田村 七年會 佐藤政一郎 二六

入營は磐炭で！
七年會館下徳太郎君
強健な體格を有する、岩手縣下閉伊郡津輕石村源藏三男館下徳太郎君(三三)は、徴兵に合格するを確信し、入營後老親の扶養、自身の小遣ひ等を準備する必要を痛感したる際、偶々七年會の案内書を手にし、之なる哉と、來山して入會した。爾來今月迄精勵奮闘を續け既に國許へは百六拾圓を送金貯金し、此程豫備訓練(來春一月入營)をうける爲に退職、現金參百餘圓を懐に會長以下同僚に送られて、萬歳聲裡に綴驛を出發歸郷の途についた。

満堂の拍手と共に開會の挨拶が切り出された。
挨拶が終ると、國歌合唱主催者挨拶、大内民惠氏の祝辭を以て更に御老人の感激をそそり、兒童の演技を進行した。
各校共見事なものばかりで諸先生の御指導如何程か御骨折りの事と察せられる。出演兒童の可憐な姿には涙なくして眺めらぬものも多く涙を拭く御老人、來賓の方々もポツポツ見受けられた盛りに可憐な低學年より、家政女學校生徒、女子青年の個人舞踊、更に高學年男子のオーケストラに幕を閉づるまで、何れも精練されたものばかりであつた。
擴聲器其の他に御後援下さつた會社側への深謝も忘れずはならぬ。

敬老會
去る十一月八日敬老會當日は、誠に恵まれた秋晴で御年寄の方々に御出を願ふのには絶好のチャンスであつた。孫に手を引かれながら何れもほろほろと御老體を淺野館前に現された時は、居並ぶ全員ひとしくなごやかな清々しい氣持をかまされた。植込みの紅葉二葉が風もないのにハラハラと静かに散る午前十時

敬老會
本年度は、七十五歳以上が敬老會の名簿に載る方々で、其總人員二一〇人、此日出席者一四六人、欠席者六四人であつた。(佐藤生手記)

- 本紙贊助金寄贈芳名
- 金壹圓 二本松 小島 里治
 - 金貳拾圓 平市 諸橋久太郎
 - 金壹圓 二本松 崎田 直昌
 - 金五圓 小濱 根本清左工門
 - 金參圓 内郷 齋藤 炭礦
 - 金參圓 内郷 御殿主研會
 - 金壹圓 内郷 無名氏

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内民惠著
(四六版二一頁 定價五十五錢 郵税六錢)

行き詰る現代の教育制度を解明して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校報に送らる。これと未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
寄を寄せて曰く、多年ノ御體験下實地ノ御試練ニ基キ眞學實業ノ大精神ヲ拜察止リ不遜感激ノ寸ハ申候云々。

輸送協調週間

加藤綴驛長の布告

点検規則第六條に依る通常点検を行つた。

十月二十九日(日曜)第三回珠算競技會を記念館に開催。各課各抗係より六十名ノ選手參加の盛會。

日本評論社

東京京橋三丁目

山下喜代治、赤土興榮、高原重吉、松村智浩(同後列)田中宇一郎、高萩佐重、遠藤萬四郎、大平彌惣治、網掛榮之助、齋藤直重、福羽

東京京橋三丁目

皇太子之吉 大内民憲著
 矢野 恒太序
教育制度改革概論
 (四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

宮城縣伊具郡西根村 七年會
 二天 佐藤今朝吉
 福島縣伊達郡白根村 小原
 二五 霜山 政治 二五

山形縣最上郡及位村 飯尾
 二二 渡邊喜一郎 二元
 福島縣伊達郡山舟生村 小名濱
 二二 齋藤 一 二五

して、奮闘を開始した。茲に掲載の寫眞は、御代募集課長及大内七年會長を取圍んでの其の記念撮影である。

なごやかな清々しい気持ちをかもされた。植込みの一角に散る午前十時

金武拾圓、平市 諸橋久太郎
 金五圓、二本松 崎田 直昌
 金五圓、小濱 根本清左衛門
 金五圓、内郷 齋藤 炭火磯
 金參圓、内郷 御殿主婦會
 金壹圓、内郷 無名氏

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校擧に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
 前京大總長小西重直博士
 書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ト蓋シ異學異國ノ大精神ヲ拜

發行所 日本評論社
 東京京橋三丁目
 取次所 内郷村報社

輸送協調週間

加藤綴驛長の布告

常に停車場、汽車中、劇場等に於ける一般人が、公德心に缺如せるを、慨嘆して居つた記者は、輸送協調週間中の或日、綴驛跨線橋上の入口に、別項に掲載した様な、加藤驛長の布告を見て、轉た喜びに堪へず、直ちに寫しとつて、本紙に掲載する事にしたのであつた。我全村は勿論、全國民を擧げて之を實行、世界に

磐炭の十一月は 總努力月

範を示すことにしたいものである。

國防献金

【其一】金壹圓五拾錢、四家一氏、防空演習に出動して得た手當を。
 【其二】金參圓、磐高女校下級生が蠅取りをして得た金の内、正木校長より村統後奉公會へ。

大越氏の美擧

滿二ヶ年中支方面に赫々たる武功を立て、歸還したる大越久五郎氏は、平市

点検規則第六條に依る通常点検を行つた。

御座 會員の活動

慰問袋調製費に充當するたために、タガラを背負つて四日間國道改修工事に出動其經驗もなき校長夫人も之に参加人をして感激せしむ

選舉人名簿

九月十五日現在、衆議院議員選舉有権者數、六二六三八。村會議員選舉有権者數、五二七七八。

磐炭記事抄録

十月二十三、半島人最防團禮式命に依る分列式及二名採用完了。

珠算競技會入賞者

【一等】吉田繁男【二等】金成三武男、大坪吾夫【三等】橋本松治、渡邊忠義、磯野長一【四等】鈴木千代江、柏原正一、片寄安義、新妻育太郎【五等】山田文平、法師人徳一、森さよ、平田良平、高橋岩雄、由良一幸、小松益榮、原健、中村直一、菅原文伯。以上二十名。

福島縣社會事業講習會之記

非常時局に鑑み、社會事業の重要愈々大を加へ、社會事業従事者の益々活躍を要する時に際り、時局認識の深化を圖るの目的を以て、縣主催の下に縣下方面委員大會に引續き、十一月六、七の二日間白河町第三小學校講堂に於て、開催したるを以て、本村長は金澤助役、鈴木第三小學校長、田口慶託の三名出席受講したり。今其概要を記せば
 六日午前九時より、前大藏省參與官代議士中村三之丞氏、支那事變下並に歐州動亂下に於ける我國の財政經濟に關する講演にして、聽衆に多大の感銘を與へたり。午後一時よりは、陸軍省情報部砲兵少佐長谷川宇一氏の講演にして、歐州動亂と我國の態度の題下に、如何に巨額の戦費を要するか、軍人として戦争に勝つを制せんは、勇敢、機敏、忍耐等の精神力に依らざる可らざるかを今回の「ノモンハン」戦闘に鑑み、其必要なるを引證しての講演なり。
 七日午前九時より日本女子大學の教授生江孝一氏の、時局と兒童保護の題下に、七十三の高齡をも見えず、嬰孺壯者を凌ぐ意氣を以て、時局は物産の資源、人的資源を要求するの今日、兒童保護の重大なるを力説して、一般を感動せしめたり。以上は講演の概要なるも社會事業従事者の爲めには、有益多趣の講習たりしを附記して擧筆す。

絕對協力！ 總親和！！

- ▽協力愛護 驛の愛護は郷土の誇り
- ▽出札口では 釣り銭のいらねやう
- ▽改札口では 列をつくつて混雑防止
- ▽小荷物口では 荷造完全 宛先明瞭
- ▽ホームでは 降りる方をお先きに
- ▽車内では 狭い車内も譲つて廣く

水戸運輸事務所管 綴驛長

縣方面委員大會

十一月五日白河町に於て開催の同會に、本村よりの出席者は第一面掲載の寫眞の通りで、其氏名は

【向つて前列右より】金澤慶一、宮下秀實、山崎金典、山崎辰亥、田口淳三、大内民憲、金澤爲喜、

慈母の臨終に遭ふて

濱崎善三郎

七月二十七日、早朝姉上と壽翁を、母上臨終の地豊岡村望洋荘に案内す。正午より一七日の法要を営む。晝は社宅の令夫人方二十六名を、夕刻より男客四十一名を招く。

望洋荘の青木看護婦長の曰く、「何日も御元氣でしたが、二十日は格別御元氣でした。夕刻蚊が出るから、早く蚊帳を頼むと、元氣に寝られましたが、午後十時頃どうも悪いやうだから、先生に診ていただいた處、直ぐ治るだらう、濱崎さんに電話するまでにはあるまいか」と言ひましたが、何となく心配なので、御母さんに伺つたところ、電話してくれとのこと、然し濱崎さんは忙しい方だが、御在宅か知らん申す、今日は居るおほせなので、十時十分頃お電話したわけですよ。」



影面の堂母

その手紙を讀まれて母は、子が二十日には、家に居ることを、はつきり知つて居られたのである。

母上は、吾等兄弟が集つた席では、「生きて居る間に、大切にしておくれ、死んでからはどうでもよかばい。」とよく笑ひながら言はれた。母はまた最近「おれはもう何の心配もなく、安心して死んで行ける」と、幾度も述べられた。

内郷村報の

六大使命

- 一、政黨政黨を超越して、村々充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各種關係の活動状況を報導し、併せて其發展を計り、現狀和進努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。

- 四、村内の善事興行を奨励し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村外諸村及本村関係諸村との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

ニ天
ルベ
從人
順人
ナ則

は閣議にかけることゝなるのは必定であります。幸ひなるかな現首相は、阿部閣下であります。前例によつて、閣議お談議が重んじられ結局之は國費若しくは縣費を以て

瀧山淺草寺の觀世音の御守と共に善三郎が形見として拜受した。江の島、鎌倉、あの江の島の岩本樓の廣間から、その時は同行幾人であつたか、覚えて居らぬが、皆で靈峯富士の姿を遠望した時の光景は、まだ印象に残つて居る。六年前江上のおぼろげに御二人を雲仙に案内した時は、まだくまなく御元氣で、絹笠山の頂上まで、同行の予の二男胖三、半は競走された絹笠山の頂上から、見下した風光は、まだ眼前にちらつく。

予は松島を以前二回見たことがあつたが、餘り感心出来なかつた三度目に母上に御伴したときは、陣に乗つて限なく案内したときは、せいもあらう、成程三景の一があつた。母上の御陰で、千代萩で名高、政岡の墓にも詣で、其遺品の數々を見る機会を得た。

父上唯一の自慢の種であつた日光にも、七年前に御供をした。最近の機会に、今一度日光に御案内する約束をしてゐた。そして今度、はクーベルカーで中禪寺湖、華嚴瀧まで、御伴する筈であつた。一日光へ行つても、中禪寺湖の見れば結構でない、といふのが予の見解である。此の御約束だけは、つひ果し得なかつた。

昨年十二月三日、情趣豊かな宮城縣鎌光温泉の小島山に御案内したときは、七十年前初めて味ふ樂しみだに惚れた。

母上は、心やすい人には、見て歩かれた事共よく話された。語られながら曾遊の快も、幾度も幾度も、繰り返して繰り返して、味はれたに相違ない。御最後の望洋荘看護婦さん達も、ごたふんに漏れなかつたやうである。

のを見發して、蛇の脱殻のあつた家では、いゝことがあつた。金がうんざり出るといふふるまされてあることを告げた。以來予は子供にもいたづらさせぬやうに、そのまゝ珍寶として置いた。

望洋荘に入院される數日前、母上に此事を語り、善三郎は今にうんざり金が出来ませぬと笑ふ、母上も微笑して居られた。

告別式の濟んだ翌日、庭掃除に下りた予は「母を亡ふて何の脱殻ぞ、金などは一文もいらん」といふて、塵箱に捨て、しまつたことであつた。此光景を縁側から見て



望洋の眺め

居られた、池田叔父上が、何か一言申されたが、遺憾ながら記憶に浮んで來ない。

して何とも申譯がない……どうも油断してゐた。よもやこゝに早く通かされることは、夢にも思ふてゐなかつた。

人間は何時死ぬか分らんといふので、自分では今から四年も前に自分で戒名をつけ、位牌をまでこしらへてゐるに、親は何時迄も生きてゐて下さると思ふて……あゝ、油断した、油断した。自分の心は、後悔の念で一ぱいである。然しこゝな時、西田幾多郎博士のあの文章の一節が思ひ出される。

「最後にいかなる人も我子の死さうな如きことに對しては、種々迷を起さぬものはなからう。あれをしたならばよかつた、これをしたならばよかつたと思つて、返らぬことながら、徒らなる後悔の念に、心を悩ますのである。

然し何事も運命を諦めるより外はない。運命は外から動らくばかりでなく、内からも動らく我々の過失の背後には、不可思議の力が支配して居る様である。後悔の念の起るのは、自己の力を信じ過ぎるからである。我々はかかる場合に於て、深く自己の無力なるを知り、己を捨て、絶大の力に歸依する時、後悔の念は轉じて懺悔の念となり、心は重荷を卸した如く、自ら救ひ又死者に託さるること出来る。

歎異抄に「念佛はまことに淨土に生る、種にやはらんべらんまた地獄に墮つべき業にてやはらんべらん。總じて存知せざるなり」といへる。尊き信念の面影をも窺ふを得て、無限の新生命に接することが出来る。

昭和十四年八月十日午前六時
離室亡母の靈前に於て記したる

本報發行は内郷一取の事業に
し、其の進歩は予に歸する
書を發するもなり

赤化せる労働者群の如くに、同盟罷業をするが如きは、平時に於ては勿論、況んや此非常時に於ておや、かゝる暴舉に出づるは、第一上 陛下に對し奉りて、相濟ま

發行日 五月一 一月報

本報定価 一部金五元 一年報費金百十八元
編輯部 内郷村報社
編輯部 内郷村報社
編輯部 内郷村報社
印刷部 平活版所